

地方民鉄紀行

文・写真

松澤美穂

富山地方鉄道株式会社

見えたり見えなかったり
気まぐれな立山連峰を探して
富山の街を右往左往
歩き疲れて甘味を求めれば
衝撃の地元グルメに遭遇



迫

りくる台風に戦々恐々としている首都圏を抜け出し、たどり着いた富山駅。駅周辺は小雨ばらつく静かな空模様。よかった、これなら十分沿線散策が楽しめる。

天守内で学ぶ富山郷土史

富山地方鉄道の富山駅電停は、JR及びあの風とやま鉄道の富山駅舎内に乗り入れるように造られている。雨に濡れず乗り換えができて、とても便利。

城下町にきたのなら、まずはお城へ。

1両編成のクラシカルな路面電車に乗り、ガタガタと揺られること約5分。国際会議場前電停で降りると、富山城天守はすぐ目の前。天守と言っても、昭和の時代に博覧会の記念として建築されたコンクリート製で、中は郷土の歴史を紹介する博物館になっている。

展示によれば、最初の富山城は豊臣秀吉によって壊され、その後、富山藩前田家の居城として建て直されたものの、明治時代の廃城令で取り壊されたという。どんな天守を持つ城だったのか、そもそも天守があったのかもわかっておらず、今ある天守は、犬山城など現存天守を参考に造られたものだとか。

富山城・富山藩の歴史をたどり、最上階の天守展望台に上がる。4階建てなので、さほど高さはないけれど、周囲に広がる市街地が見渡せる。路面電車が走っていくのを眺めながら、社会科見学らしい子どもたちの集団に場所を譲ろうとしたとき、建物の間に黒い山影が見え隠れしているのに気がつく。立山連峰が、見えている！これは急がなくては。

立山連峰、初めて見た

以前、射水市にある海越しに立山連峰が見えるという場所を訪れたときは、よく晴れていたにも関わらず、影も形も見えなかった。

今回、富山地方鉄道市内電車で行ける範囲で、立山連峰がきれいに見える場所を事前に教えてもらってはいったものの、天気はいまひとつだし、霧や霏が立ちやすい夏だし、まず無理だろうと諦めていた。でも、少しでも見えるなら、教えてもらった場所から見たい。

城址公園を小走りに横切り、丸の内電停から富山大学前電停行きに乗る。目指すは富山大橋の上。立山連峰を背景に走る路面電車が見えるらしい。立山連峰の方を見ないよう、あえて視線を下に向けたまま、富山大橋を渡ってすぐの「トヨタモビリティ富山Gスクエア五福前電停」で降りて、橋の上に戻る。

ワクワクしながら視線を上げ、橋の上から街中心部の方を見ると、立山連峰の黒い山並みが、屏風のように街を取り囲んでいる。想像以上に山が近い。残雪が残っているのも見てとれる。立山連峰、初めて見た。

もちろん、観光サイト等に掲載されているような絶景とは比べるべくもない。美しい立山連峰を見慣れた富山の方々にすれば、「立山連峰の実力はこんなものでは……」といったところだろうけれど、見られただけで、十分。立山連峰をバックに走る電車の姿を写真に収め終われば、大満足。

もうこの後、大雨になっても文句はない。けれど、気づけば小雨が止んでいる。もしかしたら、前回の北陸旅では見られなかった、

富山地方鉄道 市内電車

【とやまちほうてつどう
しないでんしゃ】

南富山駅前電停から富山市内を通り岩瀬浜駅まで、39の電停の間に6つのルートを行き来する路面電車。富山駅電停から岩瀬浜駅までの区間は「富山港線」と呼ばれ、途中で路面電車から鉄道路線に切り替わる。



富山城天守。中は「富山市郷土博物館」になっている。





富山大橋の上から見た、立山連峰をバックに走る路面電車。



右／古い廻船問屋の邸宅。登録有形文化財になっている。
左／富山湾展望台は、地元の金力鹿羅社の常夜灯の形を模しているとか。

港町岩瀬で旅景色を堪能

海越しの立山連峰も見えるかもしれない。立山連峰を眺めつつ富山大橋を歩いて渡り、富山湾の方へ向かうべく、丸の内電停に戻る。

丸の内電停から岩瀬浜行きの電車に乗る。超低床路面電車・ポートラムはスリットと滑るように走り、富山駅電停を通り過ぎてしばらくすると路面電車から鉄道線に切り替わる。グッとスピードを上げて走ること約20分。終点・岩瀬浜駅まで行かず、東岩瀬駅で下車。ここから岩瀬浜駅の間には、江戸時代に北前船で栄えた古い街並みが残されている。

瓦屋根に出格子を備えたかつての廻船問屋の邸宅や歴史ある酒造店、料亭などが立ち並ぶ。古民家や蔵を改築したレストランもあるらしい。景観を守るため、郵便局や銀行も日本家屋風に造られていて、一見、それとは見えない構えになっているのが面白い。

そんな趣ある街を歩き抜けた先に、富山港展望台がある。エレベーターではなく、壁に沿って作られた螺旋階段を上るしかない。高さ約20m分の階段を頑張ると、小さな展望スペースからは、富山湾と周囲の街がよく見える。けれど立山連峰は、いつの間にかすっかり雲の中。再び雨も降り出したので、海越しの立山連峰は諦めて岩瀬浜駅に向かう。

駅に向かう途中には、観光情報などが得られる岩瀬カナル会館がある。ここから船で、富山駅近くの富岩運河環水公園まで行くことができる。運河クルーズは魅力的だけれど、

所要時間は約1時間。雨も降っているし、ここは時間優先で富山港線を選択。

魅惑の富山グルメをクーポンで

富山市街地に戻ってどこに行こう。電車の中で地図を広げ、まだクーポンを使っていないことを思い出した。散策開始前に購入した「ぐるっとグルメぐりクーポン」には、市内電車の日乗車券に加え、協力店で、ますの寿司や菓子等と交換できるクーポンが2枚付いている。クーポンは翌日まで使えるとはいえ、ますの寿司は売り切れが早いと注意書きが。すっかり出遅れた。売り切れの可能性があるますの寿司は諦めて、ちよっと歩き疲れたし、何か甘いものと交換しよう。

中町電停で降りて、「あやめ団子」と引き換えられる石谷もちやへ。クーポン1枚でお団子2本と引き換え、ショッピングモールのフリースペースでさっそくかじりつく。

これはお団子？ 飲めるくらいに柔らかい。決して小ぶりではない、普通サイズのお団子2本が瞬く間に消えてなくなる。この美味しさをお土産にして共有したい。当日中なら、柔らかさを保ったままで食べてもらえるはず。富山を離れるギリギリ間際に、絶対、これを買って帰る、と心に決める。

となれば、もう1枚のクーポンはお土産分を買う足しにするのがベスト。今、これ以上食べたらずきになってしまうかもしれない。「もうちょっと食べたい」で止めておくのがベスト。わかってる、わかってるけど……富山城下に個人的魅惑の味発見。



上／左側についていたクーポン2枚は、両方「あやめ団子」に引き換え。左／「あやめ団子」は黒糖の蜜が絡んでいる。お団子とは思えない柔らかさ。

運河クルーズが発着する富岩運河環水公園。園内には某コーヒーチェーンの「世界一美しい」と評される店舗がある。

